

## 知っておくと便利な 医療マメ知識

### 1. 緩和医療(緩和ケア)

治癒や延命ではなく、身体的あるいは精神的な苦痛を除去することを目的とした医療。緩和ケアともいいます。鎮痛剤や神経ブロックを用いて、疼痛管理を行ない、患者の生活力を高める。近年では末期癌患者に対しての処置に限らず、初期段階から治療の妨げとなる疼痛を除く目的の処置としても広まりつつある。

### 2. 癌の死亡率と罹患率

「国立がんセンターがん対策情報センター」による2006年の統計によると、生涯に癌で死亡する人は男性27%(4人に1人)、女性16%(6人に1人)。生涯、癌にかかる人の確率は男性54%(2人に1人)、女性41%(2人に1人)。いずれも、高齢になるほどリスクが高くなり、50歳代以降の死亡率は、男性の方が顕著に高いといわれている。

人は守られて生きている  
現代の癌に対する医療技術は各段に進歩しています。それでも、医療の限界を超えてしまった場合は、癌によって人生の終始符を打たざるを得なくなります。今は、このような末期を迎えた癌との向き合の方について、お話をせて頂きます。

人はどんなに辛い病状の中にあるても、過去によって自らの誇りを保ち、過去があるからこそ未来を感じることができます。また、周囲から与えられる愛情や存在感に守られています。そういった命の価値、人としての尊厳を守ることには、医師として「命を保護する」上で、とても重要です。

医学的な対策をとることは当然ですが、それだけでは破綻してしまいます。患者さんは辛い現実に直面しながら「自分は何か罰を与えられているのではないか」と、医療の限界を超えてしまった場合は、癌によって人生の終始符を打たざるを得なくなります。今は、このような末期を迎えた癌との向き合の方について、お話をさせて頂きます。

### 在宅緩和医療の意義と課題

然ですが、それだけでは破綻してしまいます。患者さんは辛い現実に直面しながら「自分は何か罰を与えられているのではないか」と、医療の限界を超えてしまった場合は、癌によって人生の終始符を打たざるを得なくなります。今は、このような末期を迎えた癌との向き合の方について、お話をさせて頂きます。

そうではなく、共に病気と闘いながら、自分は幸せに守られる、ということに目を向けてもらわなければなりません。



安田クリニックでは、水・土曜日の午後の他、病状に応じて夜間の往診も行い、在宅医療に積極的に取り組んでおります。

癌医療で喫緊の課題となつてることの一つが、在宅緩和医療の普及です。当院のある静岡県浜松市は、日本で初めて専用病棟としてのホスピスが発足した、いわば緩和ケアの聖地。その浜松ですから、往診医が不足しており、自宅への帰り道を失っている厳しい現実があります。

在宅医療は、よく「生活を守る医療」ともいわれます。しかし、「生活」を重視し過ぎて解釈される傾向があり、例えば、寝返りが打てないから自宅へ戻れない、とみなされた入院患者さんが病院に押し留められるという問題もあります。

本当は、自宅に戻る方が患者さんは元気になるのです。そして、ご本人がご自分の肉体を去った後も、ご家族の中で甦る場所、その受け皿を作つてあげることがあります。

在宅緩和医療は、命の灯が消えかかったとき、その灯が燃えやすいところに戻す「再生の医療」だと考えております。医療への入り口を示すとともに、帰り道を見

### 命の灯が燃えやすい場所へ

自宅に戻るほうが患者さんは元気になると述べた通り、在宅医療は大きな可能性を秘めています。

ある致命率の非常に高い病気で緊急手術をさせていただいた90歳の女性のお話です。御高齢ですから予断を許さない、一進一退の状況が続き、ご本人も辛い治療を受ける意味を見失いつつありました。そんな苦しい状況下でしたがが、ご自宅の空気を三時間だけ吸いに行くことを提案し、実際に試みたのです。その結果みると回復され、リハビリなども進んで取り組まれるようになります。た。そして、自宅に戻ったその後なんと4年間充実した生活を続けられました。

### 癌に怯える方へのメッセージ

現在、2人に1人が生涯に何らかの癌を経験する時代となっています。そして、3人に1人が癌などの悪性新生物で人生を全うします。私は、幸せの基準は「せめて人並み」というところにあります。そして、3人に1人が人生を全うする理由が人並みなのであれば、決して人生の敗北者ではないのです。

癌を克服するという勝利は、早期発見・早期治療がでければ容易に手に入れることができます。しかし、たとえ癌を克服できなかつたとしても、脳の上で静かに人生の幕を引くということは、ある意味人生の王道でもあるのです。

周りの人とのつながりを実感できることができれば、人生の最後を誇りある時間として過ごすことができる。癌とはそういう病氣である、ということをご理解していただきたいと思います。

# がん 癌に冒されても、いきいきと暮らす 在宅緩和医療の可能性を探る



安田クリニック 院長  
**安田峯次**

浜松医科大学医学部医学科卒業。浜松医科大学附属病院第一外科勤務。聖隸浜松病院外科勤務。社団法人有隣厚生会富士病院外科勤務。新都市クリニック外科・消化器科勤務、内視鏡センター長。日本消化器内視鏡学会専門会員。日本外科学会専門会員。日本消化器外科学会認定医。マンモグラフィ検診精度管理中央委員会検診。マンモグラフィ読影認定医師。